

令和7年産 パン用小麦の栽培しおり

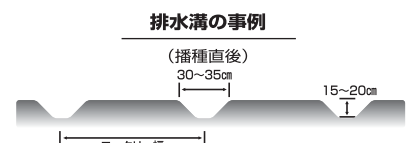
(品種名: はるみずき)

◎適期播種・適期防除(赤かび病防除は必須)・適期収穫に努めましょう
◎玄麦のタンパク質含有率12.5%以上を目差しましょう

発行: 香川県農業協同組合
監修: 東讃農業改良普及センター

1. 作業の要点 栽培履歴を必ず記載し、収穫の10日前までに提出しましょう

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
排水対策 (ほ場の乾田化)	耕起	播種	麦踏み・土入れ	追肥・土入れ	追肥・土入れ	追肥(実肥)	刈取り	乾燥調製
排水溝の設置 (溝あけ)	雑草防除(播種前)	雑草防除(初期)	雑草防除(中)	雑草防除(後)	アブラムシ防除	赤かび病		
排水溝の設置 (溝あけ) 米(3~5cm)排水溝を設ける。米刈取り後の溝を浅く掘き込ませる。	雑草防除(播種前) 雑草の発生が多い場合は、除草剤を散布する。	雑草防除(初期) いよいよ、丁寧に散布する。果が高い。また、がけムラな発生前までに散布する方が効果的。初期除草剤は、播種後から雑草とす。(ドリル播)	雑草防除(中) 排水溝の補修を同時に行う。排水溝と落水口を確実に連結する。生育期間中も排水溝の補修を行う。	雑草防除(後) 排水溝の補修を同時に行う。排水溝と落水口を確実に連結する。生育期間中も排水溝の補修を行う。	アブラムシ防除 散布する。除草剤は露がなくなつてから散布する。	赤かび病 赤かび病の防除は、開花始めとその7~10日後に行う。	刈取り 刈取適期は3~4日間と短いので速やかに収穫する。	乾燥調製 調整後は吸湿防止を特に心掛ける。乾燥後はなるべく早く調整し、高温・急速乾燥は絶対に行わない。や品質が低下するので注意する。収穫が遅れると収穫ロスの増加で速やかに収穫する。



出穂後の目安	刈取適期の目安
57日前後	水分含量25%以下(穀粒に爪の跡が残らなくなった頃)

仕上り水分	ふるい目
12.5%	2.2mm以上

生麦の水分	張込量	乾燥機型式
30%以下の場合	容量の70%	乾燥温度は機種取扱書の指示に従う。(高温型は50℃、低温型は45℃内外を目安とする。)
30%を超える場合	容量の60%	

2. 生育の目安

播種期	節間伸長開始期	出穂期	開花期	成熟期	目標タンパク質
11月25日	2月20日	3月30日	4月11日	5月27日	12.5%

3. 播種

種子更新を徹底し、種子伝染性の病害の発生を防止しましょう

播種適期	播種量(kg/10a)	
	ドリル播	全面表層播
11月25日~12月10日	7~8	8~10

・播種適期より早い播種は、過繁茂になりやすく、凍害や倒伏のおそれがある。
・播種の早延は11月20日とする。

4. 栽培のポイント

- 排水対策
播種前対策: ほ場の周囲(ヨケ)と5m間隔に排水溝を設置するとともに、スタプルカルチャやサブソイラー、弾丸暗きよを施工する
播種後対策: ロータリー幅ごとに深さ15~20cmの排水溝を設置し、落水口と確実に連結する
- 土づくり肥料の施用で酸度矯正(適正pH6~6.5を目安とする)
- 適切な肥培管理
適正な施肥量と適期の追肥
- 雑草の体系防除
播種前、初期、中期除草剤の体系処理による雑草防除の徹底
- 病害虫の防除
赤かび病の適期(開花始めとその7~10日後の2回)防除
- 収穫の適正化
適期収穫・雑草種子(カラスノエンドウ・ヤエムグラ)の混入防止



排水対策・実肥を徹底し、単収向上と高品質化を図りましょう!

5. 肥培管理(土壌改良資材や堆肥を施用し、土づくりに努めましょう)

① 施肥基準 kg/10a

肥料名	全量	基肥	分げつ肥			成分		
			(1上~1中)	(3上)	(4中)	窒素	リン酸	カリ
いすれか 硫加燐安402 (朝日BB488) (PKセーブエコ488)	65	30	15	20		9.1	6.5	7.8
硫安(必ず施用)	30				30	9.1	5.2	5.2
土壌改良資材	60~100	60~100				6.3		

注1) ほ場の地力、麦の生育状況等により、施肥量は加減する。
注2) ()内の肥料は低PK肥料のため、5年を目途に土壌診断を実施する。

② パン小麦専用肥料の施肥基準 kg/10a

肥料名	全量	基肥	実肥(4中)	成分		
				窒素	リン酸	カリ
パン小麦専用肥料(24-8-8)	60	60		14.4	4.8	4.8
硫安(必ず施用)	30		30	6.3		
土壌改良資材	60~100	60~100				

▼ 土壌改良資材 成分(%)

肥料名	ケイ酸	苦土	アルカリ分		鉄分
			粒状	石灰	
いすれか 粒状ユーキ鉄ケイカル	23	4	34		15
粒状苦土石灰	0	15	53		0

注) 前年にpHの低下による酸性障害がでている場合は、苦土石灰を100~150kg/10a程度施用する。
なお、pHを0.5上げるためには、苦土石灰約100kg/10aが必要。

6. 防除管理(農薬の飛散防止に努めましょう)

① 種子消毒

病害虫名	薬剤	希釈倍数等	使用時期/回数	注意事項	作業日
裸黒穂病	ベンレート水和剤20	乾燥種子重量の0.5%	播種前/1回	種子1kgに対し5gを粉衣する。	
	ベンレートコート				

注) 薬剤はいすれかを使用する。

② 病害虫防除

病害虫名	防除時期	薬剤	希釈倍数等	使用時期/回数	散布方法・注意事項等	作業日
赤かび病 ※必須防除	開花始め(1回目防除)	トップジンM水和剤	1,000~1,500倍	収穫14日前まで/出穂期以降は2回以内	10a当たり100ℓの水に(66.6~100g)溶き噴霧機等で散布する。	
	1回目防除の7~10日後	ワークアップフロアブル	2,000~3,000倍	収穫7日前まで/3回以内	10a当たり100ℓの水に(33.3~50ml)溶き噴霧機等で散布する。	
アブラムシ類	発生初期	アグロスリン乳剤	2,000倍	収穫21日前まで/3回以内	10a当たり100ℓの水に(50ml)溶き噴霧機等で散布する。	

①②③について記載している薬剤の使用基準は令和5年8月1日現在のものであり、今後変更になる場合があるので、使用する際は薬剤のラベルをよく読んでラベルの記載内容と一致するように使用する。

③ 雑草防除

区分	薬剤	対象雑草名	使用時期/回数	10aあたり使用量	散布方法・注意事項等	作業日
非選択性除草剤 (麦毛枯れ病の注意)	プリグロックスL	一年生雑草	播種前または播種後出芽前/4回以内	600~1,000ml	10a当たり100~150ℓの水に溶き、雑草の茎葉全体に均一にかかると散布する。	
	バスタ液剤	一年生雑草	播種前または播種後出芽前(雑草生育期)/1回	300~500ml	10a当たり100~150ℓの水に溶き、雑草の茎葉全体に均一にかかると散布する。	
	ラウンドアップマックスロード	一年生雑草及び多年生イネ科雑草	耕起前または播種後出芽前(雑草生育期)/3回以内	200~500ml	(通常散布) 10a当たり50~100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。(少量散布) 10a当たり25~50ℓの水に溶き、専用ノズル等で散布する。	
初期除草	ボクサー注1)	一年生雑草	播種後~麦2葉期まで(雑草発生前~発生時期)/2回以内	400~500ml	10a当たり70~100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。抵抗性スズメノテッポウを対象とする場合は、薬量を所定の範囲内で多めにする。 ノミノフスマには効果が劣る。	
	リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後~麦3葉期まで(雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで)/1回	60~80ml	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。播種後、軽微な白根・褐斑を生じることがあるがその後の生育・収量に影響はない。抵抗性スズメノテッポウを対象とする場合は、薬量を所定の範囲内で多めにする。	
中期除草注2)	リベレーターG	一年生雑草	播種後~麦2葉期(雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで)/1回	4~5kg	手まきまたは散粒機等で均一に散布する。抵抗性スズメノテッポウを対象とする場合は、薬量を所定の範囲内で多めにする。	
	ハーモニーDF	一年生広葉雑草及びスズメノテッポウ	麦3葉期~節間伸長前(スズメノテッポウ5葉期まで)/1回	5~10g	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。器具を使用後、速やかに消石灰水500倍液でよく洗浄する。	
	エコパートフロアブル	一年生広葉雑草	節間伸長開始期まで(一年生広葉雑草2~4葉期)(ただし、収穫45日前まで)/2回以内	50~100ml	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。散布後、軽微な白根・褐斑を生じることがあるがその後の生育・収量に影響はない。	
MCPソーダ塩	バサグラン液剤	一年生広葉雑草(イネ科を除く)	生育期但し収穫45日前まで/1回	100~200ml	10a当たり70~100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。イネ科雑草には効果がなく、イネ科雑草が混在する場合はこれらに有効な除草剤との体系で使用する。	
	MCPソーダ塩	一年生及び多年生広葉雑草	幼穂形成期但し収穫45日前まで/1回	200~300g	10a当たり70~100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。分げつ抑制作用があるため、茎数が十分確保されてから散布する。暖かい日が続く時期に散布すると、除草効果が低い。	

注1) 初期除草剤のボクサーを播種後出芽前に処理しようとする時、すでに雑草が発生している場合は、10a当たり100ℓの水に非選択性除草剤をあわせて溶き、噴霧機等で散布する。ただし、麦が出芽している場合は麦も枯れるので注意する。隣接ほ場の作物にからまないよう注意する。
注2) 早播きのほ場や初期除草剤の散布が遅れたほ場、初期除草剤散布後に降雨があった場合など、雑草が繁茂している場合は、時機を逃さないよう、天候を見ながら中期除草剤により雑草防除を行う。

● 各雑草に対する中期除草剤の効果

除草剤・雑草名	ヤエムグラ	カラスノエンドウ	スズメノテッポウ	タデ
ハーモニーDF	○	△	○	△
エコパートフロアブル	○	△	—	○
バサグラン液剤	○	△	—	△
MCPソーダ塩	△	○	—	△

注) ○: 効く △: 多少は効く —: 登録なし

● 主要畑地雑草

種名	ヤエムグラ	カラスノエンドウ	スズメノテッポウ	ノミノフスマ	スズメノカタビラ	カスノコグサ
草姿						
防除のポイント	中期除草剤による防除	収穫前に必ず抜取り	初期除草剤と中期除草剤の体系防除	中期除草剤による防除	播種前と初期除草剤の体系防除	播種前と初期除草剤の体系防除

◎麦収穫後は鳥獣害対策、雑草・害虫対策、土づくり対策のため速やかに耕起しましょう!

干しぐらのため、麦わらは焼かずにすき込みまじりませう!